

ゆたか倶楽部 よもやま話

vol. 28

ゆたか倶楽部では、あまり知られていない離島を旅する「島旅」に力を入れています。数年前には、大型客船「ふじ丸」を多い年で10回以上チャーターして石垣島・奄美大島・屋久島・対馬・壱岐・五島・隠岐島・利尻島・礼文島・八丈島・小笠原など、メジャーな島々をご案内してまいりましたが、他にも魅力のある離島がたくさんある事を皆様に紹介したいと考えたのです。日本には有人島が約四百二十ありますが、前述のようなメジャーな島々を除いた約三百八十の中から風景・歴史・食材など目玉になるものがある約百島を選定し商品化を進めています。

ゆたか倶楽部の会員様は全国に約5000名超で参加者の平均年齢は私と同じ76歳です。離島では目的地への移動は徒歩が基本ですが、坂道が1時間以上続くような急峻な行程の場合は別案を考えます。また、10〜20名乗りの小廻りのきくチャーター船を有効に使って、歩くところを減らすように船の方と相談することもあります。

また、島内での食事では地産地消に

こだわっていますが、天候によっては漁ができず、名物の海の幸の刺身などが食べられるとは限りません。昼食の会場では椅子席を希望し、トイレは水洗で何個あるかなど、チェック項目はキリがない程たくさんあります。他には、昼食は必ずつけて観光は自由行動を極力避けるなど、お客様に安心して旅をつづけていただけるように企画しています。

このように少人数のグループを大切にする事こそが弊社と他社旅行会社との差別化につながると考えています。

四国の最南端・高知県の足摺岬の西に位置する土佐沖の島(妹背島)もせじまとも呼ばれています(では両親が農作業している中に、小舟で流されてしまった兄妹のお話が今昔物語に登場しますが、この平安時代の妹背島伝説の舞台が、沖の島だと言われています。標高404メートルの妹背山が中央にそびえ立ち、面積は10.5キロ平方メートルしかありません。平地は少なく、ほとんどが傾斜地で、至るところに白亜の断壁や急斜地が見られます。集落へ

の道は石段で、神社まで数えたら450段ありました。何段あるか数えながら、足元がどんな階段なのかを実際に登って確認するのも、大事なポイントです。沖の島の石垣と石段の美しい景観は、「石垣・石段とともにある暮らし」名義で、国土交通省都市・地域整備局主催「島の宝100景」に選定されています。

定期船が着く弘瀬港に面する公園には、砲を肩にかけ、赤ん坊を抱いている女性の石像がありました。この女性は荒木初子さんで、「土佐マザー・テレサ」「日本のマザー・テレサ」と呼ばれています。沖の島にただ一人の保健婦として20年以上勤務し、保健衛生の向上、乳幼児の死亡率減少、風土病のフィラリア撲滅に貢献しました。彼女が助産婦となつて以来、死産は一度もなかったそうです。NHKのテレビ番組で彼女の活動が紹介されると、直木賞作家の伊藤圭一が「沖ノ島よ、私の愛と献身を」として彼女の半生を書きまとめて出版。この小説をもとに、檜山文枝主演映画『孤島の太陽』(1968年公開)が制作・上映されました。文化功労賞である吉川英治文化賞の第一回受賞者にも選ばれている、素晴らしいお方です。

自然も現地で確認しなければわからないことが沢山あります。例えば、

沖の島では「シヨンベンノキ」という木を見つけました。枝を切ると水が沢山出る。ことからこの名前が付いたそうです。白い可愛い花の木なのに、変な名前ですよね。

香川県の伊吹島はイリコ(煮干しイワシ)生産量日本一を誇り、6月から8月は島に活気があふれます。この漁獲風景と加工風景を見学していただき、チャーター船でしか見ることでできない石門(海水の浸食によってつくられた岩洞)を加えたコースを設定しました。特に、イリコを生で食べていただきます。たく7月と8月の最盛期に一回10名様限定で二回に分けて実施を予定しています。イリコ漁は毎週月・水・金曜日に行うのですが、悪天候の場合は漁ができません。この辺は天候次第ですから募集パンフレットにも正しく書かなければなりません。

このようにして再調査・確認をした九州・四国・中国地方の島々(沖縄県／伊平屋島・伊是名島・粟国島・鹿児島県／トカラ列島・硫黄島・大分県／姫島・保戸島・福岡県／志賀島・能古島・佐賀県／高島・神集島・長崎県／鷹島・松島・徳島県／伊島・出羽島・香川県／広島・左柳島・愛媛県／興居島・中島・山口県／周防大島・大津島・広島県／岩城島・弓削島)を中心に順次ご案内していく予定です。